

令和6年度 学習分析事業 課題改善シート 三原市立宮浦中学校

【別紙1】

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

	国語	社会	数学	理科	英語	全体	
1年	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	/	/	
	本年度結果 偏差値平均	46.1	45.1	46.9	45.9	47.8	46.3
2年	前年度結果 偏差値平均	51.1	48.8	50	49.8	50.7	50.1
	本年度結果 偏差値平均	49.2	47.5	47.8	47.7	49.3	48
3年	前年度結果 偏差値平均	50.9	49.2	51	48.9	50.8	50.2
	本年度結果 偏差値平均	50	46.8	48.1	44.7	47.6	47.3
全体	前年度結果 偏差値平均	50.4	49.5	49.1	49	50.7	49.7
	本年度結果 偏差値平均	48.5	46.5	47.6	46.1	48.2	47.2

②学習環境分析 Q-U【1回目】

	1年	2年	3年	全体
一次支援	人数(人)			
	割合(%)			
二次支援	人数(人)			
	割合(%)			
三次支援	人数(人)			
	割合(%)			
学習意欲	学年(点)			
	全国(点)			

③全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	数学	英語
前年度結果 (対照比)	69 (98.5)	42 (85.7)	52 (120.9)
本年度結果 (対照比)	56 (96.6)	51 (98.1)	/

④学習環境分析 Q-U【2回目】

	1年	2年	3年	全体
一次支援	人数(人)			
	割合(%)			
二次支援	人数(人)			
	割合(%)			
三次支援	人数(人)			
	割合(%)			
学習意欲	学年(点)			
	全国(点)			

2 令和5年度について

①調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <p>【国語】古文読解について、2年38%(全国44%)、3年38%(全国49%)である。 【社会】2年歴史分野の正答率が際立って低く、3年歴史分野(江戸時代中期以降の政治・文化)正答率が全国より5%以上低い。資料読み取り問題は全学年で高くない。 【数学】全学年、関数領域が全国正答率より低い。前学年の5段階分布比で、現2学年は2が減少、3、4、5が増加。現3学年は4、5が減少、3が増加している。 【理科】2、3年は昨年度末の単元(3年・電流、2年・地球)で全国平均との有意差検定が低い問題が多い。1年は電流回路、てこの原理で全国比67%前後。 【英語】全国比で、1年は話す領域が91、2年は聞く領域が94、3年は読む領域が99であった。5段階分布で1の生徒は、1年8%、2年7%、3年10%であった。</p>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>●【国語】平均正答率は69(全国69.8)で、記述式の正答率が低く、特に自分の考えを書く問題の正答率は78.7(全国82.5)、現代語で書かれた竹取物語の工夫点を古典と比較して書く問題の正答率が39.8(全国50)であった。 ●【数学】平均正答率は42(全国51)で、知識・技能の正答率が46.9(全国55.7)、思考・判断・表現の正答率が31.3(全国41.6)であった。言葉の意味の理解を問う問題や、グラフの読み取り、説明・証明などの問題が特に課題である。 ●【英語】平均正答率は52(全国45.6)で、情報の正確な聞き取り77.8(全国79.0)、短い文章の概要の読み取り31.5(全国34.7)が全国を下回った。記述の無解答率が高いことも課題といえる。「話すこと」では、平均正答率15%(全国12.4%)であったが、数名の高得点によるところが大きい。</p>
<p>【学級・学年集団について】(1回目のQ-Uをうけて)</p> <p>●【1年】全体の62.5%の生徒が概ね安定した学校生活を送れているが、三次支援が必要な生徒が約5.7%いることが分かった。 ●【2年】三次支援が必要な生徒の割合が全体の4.3%いる。 ●【3年】親和的なまとまりのあるクラスが2学級、規律と人間関係が不安定な学級が1学級で、三次支援が必要な生徒は全体で2.8%である。</p>	<p>【学級・学年集団について】(2回目のQ-Uをうけて)</p> <p>●【1年】概ね安定した学校生活を送れている生徒が全体の69.9%に増加したが、三次支援が必要な生徒の数は6%となった。 ●【2年】三次支援が必要な生徒の割合が、5.9%に増加した。 ●【3年】親和的なまとまりのあるクラスが2学級、ゆるみのみみられる学級集団が1学級で、三次支援が必要な生徒は全体で1%に減少した。</p>

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>【国】古文の内容の正確な読み取り。 【社】基礎的知識、資料読み取り技能の向上。 【数】関数と事象、座標、グラフを関連付けた授業改善。 【理】基本原理の習得、日常生活と関連させた授業改善。 【英】長い英文による長文読解力・聞き取る力の向上、視覚支援をベースにした言語活動の充実。</p>	<p>①教科会による現状と課題分析、目標設定 ②試験期間中の学習相談を活用した補充学習。 ③小テスト・モジュールでの繰り返しによる定着。既習問題と応用問題をバランスよく組み込んだ授業展開。 ④板書の工夫。(めあてと振り返り) ⑤ICTの効果的活用や研修(ミライシード、ウインバード、スタディーギア) ⑥アシストシート問題の配布、効果的な活用。 ⑦全職員による、問いの設定・ICTの活用・協働学習を取り入れた授業改善。指導主事を招聘した研究協議の充実。</p>	<p>①6月28日実施済み ②2・3学期の定期試験前。(10月、12月、2月) ③④通年 ⑤⑥研修後、通年。(1単元に1度はICTを使用した授業展開。授業内でアシストシートを使った検証) ⑦個別研究授業1学期6名、2学期7名、3学期2名</p>	<p>■学校アンケートで授業改善を検証。(ICT、問い、協働について。時期:9月) ■アシストシートを利用した類似問題の出題(時期:2学期定期試験または授業内)→4月のNRT以上の数値を目指す。</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>今年度末までに三次支援の生徒の減少を目指す。その手立として、デイリーライフやアンケート等を通して生徒の内面を見取り、個別対応していく。</p>	<p>①学年群によるQU結果からの学習集団の把握、個の支援状況把握 ②デイリーライフを毎日確認し、個別にアドバイスする。 ③定期的にアンケートを実施し個別面談等を行う。 ④教員による共通認識を図り、困り感等の解消に取り組む。 ⑤構成的エンカウンター等で、人間関係形成の構築に努める。 ⑥肯定的評価を学級・学年で取り組む。 ⑦SCやSSWIによる研修、生徒理解に係る研修</p>	<p>①6月28日実施済み ②毎日。 ③每学期1回、Q-U時。 ④随時。 ⑤学期に1回。 ⑥随時。 ⑦8月</p>	<p>第2回のQ-U →各クラスにおける三次支援の生徒の減少</p>

3 令和6年度について

①調査から明らかになった課題

<p>【学力調査について】(NRTをうけて)</p> <p>●基礎的知識・技能の定着が不十分。 ●長文問題や記述問題の無解答率が高い。 ●(全国学力・学習状況調査をうけて) ●問われていることを正しく読み取る力、長い文章問題を読もうとする粘り強さが弱い。 ●意図・内容・図表をもとに自分の意見や説明を書く問題、要約する力が弱い。</p>	<p>【学級集団について】(1回目のQ-Uをうけて)</p> <p>(2回目のQ-Uをうけて)</p>
--	---

②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

重点取組上記課題を踏まえたもの	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期
<p>【学力向上について】</p> <p>・まとまった文章を書くこと ・情報と情報との関連付け ・読解力、伝える力の向上</p>	<p>①全学年全教科等で、R80の実施(必須) ②モジュール学習や学習相談の継続 ③正確に読みとらせる工夫、説明・表現・要約させた内容を比較する機会の設定</p>	<p>アシストシートや、類似問題を、各教科適切な時期に実施し、今回の結果を上回る。</p>
<p>【学級・学習集団づくりについて】</p> <p>・学習規律・学習環境の整備 ・安心できる居場所づくり</p>	<p>①問いの工夫・協働による、「参加できる授業」「わかる授業」の創造。 ②デイリーや面談、生徒理解研修による、個の把握。 ③授業規律6項目を基盤とした授業の再構築。</p>	<p>2回目のQ-Uで、二次支援の生徒の減少、一次支援の生徒の増加。</p>